# YOUTH ユースサービス SERVICE

若者と支援者をつなぐ機関誌 VOL. 13

若者を考える、若者と考える

ユースサービス VOL.13 2012年10月1日発行

## ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。
家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

# 「街コン」大流行 地域活性化にも一役

## 少年非行防止へ地域で連携 京都で２つの試み

## 7つの青少年活動センター

### 東山青少年活動センター
住　所：〒605-0862　京都市東山区
清水5丁目130-6　東山区総合庁舎2階
ＴＥＬ：075-541-0619
ＦＡＸ：075-541-0628
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/higashiyama/

### 南青少年活動センター
住　所：〒601-8441
京都市南区西九条南田町 72
ＴＥＬ＆ＦＡＸ：075-671-0356
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/minami/

### 北青少年活動センター
住　所：〒603-8165　京都市北区紫野
西御所田町 56　北区総合庁舎西庁舎３階
ＴＥＬ：075-451-6700
ＦＡＸ：075-451-6702
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/kita/

### 山科青少年活動センター
住　所：〒607-8086
京都市山科区竹鼻四丁野町 42
ＴＥＬ：075-593-4911
ＦＡＸ：075-593-4916
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/yamashina/

### 伏見青少年活動センター
住　所：〒612-8062　京都市伏見区
鷹匠町 39-2　伏見区総合庁舎４階
ＴＥＬ：075-611-4910
ＦＡＸ：075-604-4910
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/fushimi/

### 中京青少年活動センター
住　所：〒604-8147　京都市中京区東洞院通
六角下ル御射山町 262
ＴＥＬ：075-231-0640
ＦＡＸ：075-231-1231
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/nakagyo/

### 下京青少年活動センター
住　所：〒600-8871
京都市下京区西七条北東野町 90
ＴＥＬ：075-314-5636
ＦＡＸ：075-314-5640
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/shimogyo/

開館時間　平日：午前 10 時～午後９時
日祝：午前 10 時～午後６時

休館日　水曜日・年末年始
（12/29 ～ 1/3）

発　行
公益財団法人　京都市ユースサービス協会
〒604-8147　京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町 262
京都市中京青少年活動センター内
tel：075-213-3681　　fax：075-231-1231
E-mail：office@ys-kyoto.org
HP：http://www.ys-kyoto.org

印　　刷：株式会社谷印刷所
デザイン：自然堂株式会社

3 特集 「街コン」大流行　地域活性化にも一役

7 ねっとわーく NPO法人 京都DARC（ダルク） 農作業を通じて自らの強みを発見

8 野菜づくりから仕事に近づく ～働きながら、働くことを学ぶ14週間～

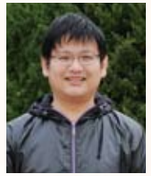
10 少年非行防止へ地域で連携　京都で2つの試み

12 青少年活動センターのページ 創作ダンスを楽しく　ココロからだンスW.S

14 ユースかわら版 リサイクルびんで工作ほか


## ぷち・メッセージ

社会をあきらめない
自分をあきらめない
京都はあきらめない




龍谷大学政策学部准教授
深尾昌峰


今から私たちが生きていく社会は、世界に類を見ない「少子高齢化社会」に突入していきます。これは、社会保障費が増大し若い世代の負担が重くなるという単純な話だけでなく、社会のありようや人の生き方、価値観の変化が急速に進むことを意味します。換言すれば、右肩上がりの経済成長を基軸とした社会構造からの脱却です。加えて東日本大震災や福島原子力発電所事故は、それらの変化を加速させている感があります。一方で、シルバー民主主義という言葉にも象徴されるように、若者の社会参加や政治参加は進んでいません。私も日々学生と接していると「あきらめ」が支配している現状に驚かされます。さらに自己有用感や先行きが持ちづらい社会がそれらを増幅させている気がします。

そういった現状を越えて行くためには、みなさんら若い世代が社会の大切な担い手としてあきらめずに主体的に考え、認め合い、行動していくことが大切になってきます。チカラをお互い引き出し合い、社会のチカラに自身で変えていくことができる土壌を私もみなさんと一緒に創って行きたいと思います。

（京都市ユースサービス協会評議員会会長）

［表紙の花］
赤ソバ……信州・箕輪町で栽培されている赤い花をつける新種の「高嶺ルビー」を使用した蕎麦



Youth Service ユースサービス

# 「街コン」大流行　地域活性化にも一役


京都若者サポートステーション　ユースワーカー　冨田祐子

日本が抱える課題に少子高齢化、晩婚化、非婚化の3つがあげられます。国勢調査による未婚率は10年間各年代で増加しており、もっとも未婚の増加率が高かったのは男性が40～44歳の9.9％、女性は35～39歳の9.1％です。

一方、長引く不況で外食産業にも影響があり、外食産業市場は平成10年からどの部門でも減少をしています。

外食産業の活性化＝地域活性化と既婚率を高めようと、「街コン」が全国各地に広がりをみせ、京都でもいくつもの「街コン」が定期的に開催されています。

「街コン」は、宇都宮で平成16年に始まった「宮コン」がブームのきっかけです。若者の足が遠のいていた中心市街地に活気を取り戻すことが目的で、街の店舗で自由に飲食ができ、新しい出会いがある仕組みとなった街ぐるみの大型コンパです。

「宮コン」から1、2年で関東に広がり、現在では全国各地に爆発的な流行をみせています。

# 出会いと飲食だけじゃない！　学生がつくる「京こん」

「京こん」は京都産業大学経営学部の金光ゼミのメンバーが主催しており、30歳前後をターゲットに今年3月に第1回、6月に第2回、8月に第3回と定期的に開催されています。場所は、京都のランドマーク「新風館」を中心とした三条―四条間の烏丸界隈で、オフィス街烏丸の飲食店に休日も賑わいをという意味が込められています。

始まりは今年3月に卒業した前ゼミ長の企画がきっかけ。現在は委員長の土田峻也さん、副委員長の久保芹奈さんを含め4人が主に運営しています。土田さんは、第1回では当日のボランティアスタッフとして参加。第2回から委員長として運営しています。一方、副委員長の久保さんは第2回から運営メンバーとして参加。企業や店舗への営業を中心に活動しています。

委員長 土田さん（左）と副委員長 久保さん

彼らが一番大切にしていることは参加者の満足度。たとえば、第1回では注意書きのみ記載されていた飲食店のマップが第2回ではクーポンを掲載し、参加者が別の日に飲食店を訪れる仕組み。第3回では、飲食店だけでなくアパレル店や雑貨店、お寺の協力を得て、飲食店巡り以外でも楽しめる仕組みがありました。他にも参加者のことを考え、こだわったのが開催時間です。通常の「街コン」ではアイドルタイムといわれるランチタイムとディナータイムに行われますが、「京こん」では18～22時に設定されています。また、第2回からはアンケートを回収し、ゼミで集計、分析を行い次回に生かしています。参加者の他に飲食店やスタッフにも説明し、当日それぞれが気持ちよく楽しくできるよう丁寧な関わりで運営されています。

「終えたらすごく達成感がある。少しずつ有名になることで、取材を受けるなど、成果としてあがっているので（自分たちが）成長していることが身にしみて感じることができますね。第3回までは1000人が目標だったんですけど、1つ完成したら、そこからどう成長していけるかが、京こんを続けるのに重要な意味になりますね」と次の目標を土田さんは語っていました。

さる8月11日の第3回「京こん」は雨上がりの夕方、受付本部の新風館前には同性の2人組みが、今か今かと期待しながら並んでいました。ブルーやピンクのTシャツを着たスタッフは、店舗の開場準備で慌ただしく動いています。参加者は、17時40分の店舗開場まで自由時間です。自由時間の目玉は、良縁に恵まれるという六角堂。お寺で願掛けをする参加者がちらほらと見受けられました。

18時になると各店でいっせいに乾杯。男女2人ずつのダブルペアが飲食物を手にするとグッと盛り上がります。いよいよ、「京こん」のスタートです。スタッフはインカムをつけ、それぞれの店舗の空き席状況や男女比のやりとりをし、男女が話しやすいよう配慮しています。後日カップルになった方は抽選でレストラン券のプレゼントがあります。時間が経つにつれ自然と男女ペアになり、楽しそうに話している様子が見られました。「普段出会いがないので、いろんな人と話せて楽しい」（20代女性）、「飲み放題なのが嬉しい」（30代男性）、「たくさんの人と話して少し疲れたが、次の店でもまた頑張りたい」（20代男性）という参加者の声もあり、充実した時間を過ごしていました。中には「どうしたらうまくいくの？」とスタッフに相談する参加者も。スタッフは、裏ワザをアドバイスしながら、参加者との交流も大切にしていました。

## プラスαで独自性のある街コンを

京都産業大学経営学部准教授　金光 淳

街コンがなぜ流行ったのか。商店街の活性化が基本で、それに結婚難という若者側の大きな問題がうまくマッチしたことでしょう。やはりここまで流行ると淘汰されるでしょうね。実際、違う地方から来て、その地域に金銭面で貢献しないマーケティング会社もあるので、やはり、地域でやるからにはその地域に貢献しないといけませんね。

そこで、たくさんある街コンの中で差別化するためにも、どういう付加価値をつけられるかが重要です。交流としてのイベント要素がでて独自性があるといいですね。地域活性と出会いだけでなく、そこに社会的メッセージを加えていくこともできます。可能性は幾通りもあって、そういった活動ができるのは学生の特権だと思います。学生たちからは面白い発想がありますね。学生のうちに地域貢献を知っておくというのは非常に大事ですし、例えば若者の問題と絡めたり、社会と結びつくのも大事です。

街コンの申込みは、女性はすぐに定員に達するのですが、男性がなかなか集まらない傾向にあります。収入不安定だったり、正規で働いている人も出会えていなかったり、すぐに結婚できる層としては男性の方が立場が弱いのだと思います。女性も非正規な方が多いと思いますし、それなりにカップル成立はありますが、見ていて、男性が女性を選ぶという感じはないですね。

街コンのブームが去ったとしても別のかたちになると思います。どこでやっても応募者がたくさんあるのでニーズはまだまだあるのでしょう。だからこそ独自性をだして存続していきたいですね。

うちの学生もそうですが、若者には自ら動いて、いろんな意味で殻を破ってほしいですね。


**金光　淳**（かねみつ じゅん）

京都産業大学経営学部ソーシャル・マネジメント学科准教授。専門研究は社会ネットワーク分析。著書に「社会ネットワーク分析の基礎：社会関係資本論へむけて」「リーディングス：ネットワーク論」など。

# 若き起業家が主催　「ガクコン」「若者コン」

一方、学生を対象にした「ガクコン」や20代の若者を相手にした「若者コン」の主催者・佐々木優也さんは京都を含む、全国各地で2つの「ガクコン」と20個の「若者コン」を運営しています。

佐々木さんは現在22歳。大学3回生で起業しました。当初は飲食店と学生をつなぐ仕組みづくりをと考えていました。婚活がメインではなく、「地域」×「出会い」×「グルメ」をコンセプトに2種類の街コンを定期開催し飛び回っています。この街コンでは既婚者も参加可能にするなど、気軽さが売りになっています。

佐々木さんは過去、木屋町で居酒屋の呼び込みで、トップセールスを記録しました。その経験を生かし、店舗営業をしているそうです。開催場所が増えるとスタッフの確保も大変。スタッフは基本的には佐々木さんの知人の学生がほとんどですが、中には「ガクコン」に参加した人もいるそうです。

佐々木さんは、街コンにあたって、若者と飲食店をつなぎ、出会いのきっかけをつくるだけでなく、地域貢献という意味を込めて、開催前に街の清掃活動を企画、今年7月に行われた第1回の「ガクコン」では参加者の中から200人もの応募がありました。当日はあいにく雨天のため中止でしたが、次回10月にも行われる予定です。

若いながらも、西日本の10地域で街コンを主催している佐々木さん。今後について「いつか自分が影響力のある人間になりたいなって思います」と熱い思いを話されていました。

代表 佐々木さん

## 京都市の婚活支援も大盛況

京都市の未婚率、平均初婚年齢は全国平均を上回っており、問題視されています。そこで、婚活支援事業「京都婚活」が2010年度から2回、京都市と京都商工会議所青年部との共催で実施されました。行政などの主催という安心感で応募者が多く、昨年度には定員300人のところ約6倍もの応募がありました。また、「男女の初めての出会いをきもの姿で」をコンセプトに「きものde婚活」が京都染織青年団体協議会主催で2012年3月に開催されました。こちらも定員200人のところ約14倍もの応募がありました。

今年度も「京都婚活2012」が11月23日に開催されます。また、新たに「クッキングde京都婚活」と題し、「真のワーク・ライフバランス戦略」のリーディングプロジェクトの位置付けで、調理を通して交流を育む婚活支援事業が2013年2月に実施され、京都市も婚活支援に積極的な姿勢で取り組んでいます。

# わっとわーく

## NPO法人 京都DARC（ダルク）

**●目　的**

覚せい剤や大麻など薬物の依存症になっている人たちのリハビリテーションセンター。薬物依存症からの回復と社会復帰への支援を続けています。

**●設　立**

ダルクは全国で70か所ほどあります。京都ダルクは平成15年8月オープン。平成12年頃から大阪ダルクのスタッフとして活動してきた加藤武士さんらの働きかけで、京都のリハビリ・センターが誕生、この9年間で薬物依存症の約100人が利用しています。

**●代　表**

加藤さんが施設長として現場を預かり、現在は常務理事を兼ねています。（代表理事は塚本誠一さん）

**●わたしたちの活動**

薬物依存症は糖尿病や高血圧症と似ていて完治困難な病気です。薬物ほか「合法ハーブ」「脱法ハーブ」も、とかく問題になっていますし、アルコール類も要注意です。薬物依存症の人が、これまで通りにお酒を飲み続けていると、自分自身をコントロール出来なくなり、無責任な行動に走る場合があります。また浪費癖が出たり、ギャンブルに夢中になったり、さまざまな症状に悩まされるのがとても心配です。

京都ダルクは11人のスタッフがいて、障害者自立支援法に基づき共同生活援助・介護事業、自立（生活）訓練など症状回復支援活動をしています。リハビリのプログラムは「ミーティング」を中心に、若者向きや家族向けのプログラムも実施しています。薬物乱用は犯罪ですが、病気でもあり、回復可能と精力的にメッセージを送っています。医療、行政、司法の各機関とも連携しながら個々の利用者の日常を見つめ、笑顔で話しかける加藤さんらの苦労も大きい。

ダルクでよく使う言葉に「今日だけ」というのがあります。「今日だけは薬物を使わない」。これが毎日続けばと願う。クリーンタイム（断薬期間）が長くなると、ペットボトル（覚せい剤を使う者には道具）の水を見ても覚せい剤を連想しなくなります。

京都ダルクの利用規定は厳しい。アルコールを含む薬物の施設内持ち込み、使用は厳禁。言葉も含む暴力は一切だめ。利用者同士の金銭の貸借、施設内の賭けごともご法度です。男性用のグループホーム施設に続いて、このほど女性4人用の施設が誕生し、利用が始まりました。

住　所　〒612-0029　京都市伏見区深草西浦町 6-1-2 サンリッチ西浦 1F
電話／FAX　075-645-7105

# 農作業を通じて自らの強みを発見

## 野菜づくりから仕事に近づく
### ～働きながら、働くことを学ぶ14週間～

京都若者サポートステーション　総括コーディネーター　松山廉

京都若者サポートステーションと京都市北青少年活動センターでは、農業を使った就労体験プログラムを行っています。

週3回、京都市左京区岩倉の長谷八幡近くにある500平方メートル（約150坪）の農場で野菜を作り、週1回の研修で販売計画を立て、参加者自ら販売します。そして利益をシェアしようというものです。この一連の就労体験を基に、次のステップ、具体的には就職活動につなげていくことが目標です。

講師は自然農法の体験プログラムを数多く行っている、モリノメグミの川久保雅悦さん。野菜は無農薬・有機肥料でつくります。

初日の9月3日は、スケジュールの説明会と初めて出会う参加者同士の顔合わせをしました。参加者は11人。6日からは、農場に出て作業を開始しました。最初は、草刈りと畑の土づくりから行いました。鍬をふるうことが初めての参加者もいて、大変そうでした。

今回は、冬に収穫できる野菜を作ります。この中で面白いのは、ラディッシュです。和名を「はつか大根」といい、名前の通り比較的短期間で収穫できるのが特徴です。他の作物は収穫までに3か月近くかかりますが、すぐにできるので、最初に収穫の楽しみを味わえそうです。参加者の中には、ここで農業を学んで就農を目指したい人もいますが、この体験の大きな目的は〝主体性やチャレンジ精神〟を学ぶこと。また、〝自らの強み〟を見つけることです。この2つは就活にとって大切なキーワードですが、自分の主体性や強みを発見し、表現するのはとても難しいことです。一番良いのは、主体的に活動したことや、強みを見出すことのできた経験をストーリーとして語れるようになることです。

今回のプログラムでは、農作業だけでも大変なのに、販売も行います。しかし、販路は決まっていません。自分たちでアイディアを出し合って販路を決定します。そのアイディア一つ一つを検証して、自分たちが〝頑張ればできること〟を選んでいき、最後にそのアイディアを行動に移していきます。この一連の体験を通して、強みを見出します。例えば、「私はこの農業のプログラムの中で、自分の得意なネットを使って野菜を売りました」とか「他の参加者からあなたは、いつもしんどい作業を黙々とやってすごいですよね、といわれました」というような、自分自身を表現するストーリーをいっぱいこのプログラム中に見出してほしいと思います。

このプログラムには、地域若者サポーターというボランティアも参加しています。参加者と一緒に汗をかきながら、彼らの学びを支えています。

このように京都市ユースサービス協会では、農業を使った就労支援を始めました。11月末には野菜が収穫されて、12月には参加者の手で販売が行われる予定としています。

### 事業の趣旨・目的

就労に近く、より厳しさを伴った体験を行い、やり遂げたなかで生み出される自らの〝強み〟や自主的な働き方の体験を通じ、自信を持って次の就労に向かっていくことを目指す訓練の場を作る。

- 野菜を作り、販売し、その利益を参加者でシェアすることで、働くことの一連の動きを体験。
- 参加者が自ら販売計画を立て、販売することで、主体性やチャレンジ精神を学ぶ。
- 開始時刻を朝にすることで生活のリズムを整える。
- 14週間の研修をやり遂げることで、達成感を感じる。

### 事業内容

〈週間スケジュール〉

| 曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 〈農作業〉予備日 | 農作業 | 休み | 農作業 | 研修 | 農作業 | 販売等を行う |

- 時間は午前9時～12時で設定。
- 月曜日の農作業は状況に応じて検討する。
- 農作業には農業に関する座学も含む。講師は農作業と同じく川久保雅悦さん。

若者たちが繋がる

# 「住み開き」

## ～広がるシェアハウス～

「無縁社会」や「弧族」という言葉がひろがり、社会的な問題となっています。

その要因として長引く不況、薄れる家族の絆などが取り上げられています。

その一方で人と繋がることを求め、若い人が集まる家が増えてきました。

京都でもそんな空間作りをしている若者たちを追ってみました。

（京都若者サポートステーション　ユースワーカー　冨田祐子）

### 株式会社 めい

昨年の1月に出会った若い2人が意気投合し、4月に株式会社設立、職住一体型シェアハウス「めいちゃんち」の運営を始めました。学生同士だった扇澤友樹さん（23）と日下部淑世さん（25）は内定していた就職先を断り起業しました。現在、伏見区に準備中のカフェ付きを含め、4軒のシェアハウスを京都市内で運営しています。

1軒目（北区）は寺子屋がコンセプトのシェアハウスを開設。ツイッターやフェイスブックで繋がった18～30歳前後の若者について「求めているのは出会いと未来。変わった価値観の人がたくさん来るので、いい刺激があります」と話しています。

ここの住人になると、一人暮らしの時に支払う敷金礼金分の初期費用だけで、3年間会社の持つ他のシェアハウスもシェアできる仕組みになっています。これには好きな場所を見つけてほしい、働く力を身につけてほしい、常に仲間とつながってほしいという気持ちがこめられています。

**仲間募集中！**
**応援してくださる方募集中！**

株式会社めいは、家を貸してくださる方、タイアップしてくださる地域や企業や学校、人と繋げてくださる方など、協力者を募集しています！！

株式会社めい　検索

日下部淑世さん（左）と扇澤友樹さん

### 京都 ゲストハウス 楽縁

運営代表の田中崇丈さん

二条城から徒歩5分ほどに町家を改装したゲストハウス・楽縁があります。運営代表の田中崇丈さん（23）の高校時代は政治家志望でしたが、高卒後、日本中を旅し始めました。「ヒッチハイクでさまざまな人と出会って、助けられたりもしたし価値観や考え方が変わりました」と話しています。その後、サラリーマンを経て、旅人の思い出になればいいなと昨年7月にゲストハウスをオープンしました。

ゲストハウスには田中さんと出会った人や口コミで繋がった人をメインに20～30代の人が集まっています。特徴は泊まらずにふらっと遊びに来る人が多いこと。宿泊者でも「ここに行けば何か楽しいことがあるかも」と期待しており、交流スペースのリビングで過ごす人がほとんど。

田中さんは「人との出会いで価値観って変わると思うんです。楽縁に行って人生変わった！　っていってもらえたら本望ですね」と語っています。

### アサダワタルさんに聞きました

アサダワタル

1979年大阪生まれ。日常再編集をテーマにミュージシャン、作家、大学講師として、幅広く活動するクリエイター。

プライベートな空間を人と繋がる場として開放する若者の増加について、その活動を「住み開き」と提唱し、同名の著書が話題のアサダワタル氏にお話を伺いました。

「住み開き」の活動事例で「職住一体型」というキーワードが必ずでます。僕はプライベートから仕事にも繋がるスキルが当然あると思っています。終身雇用の崩壊や雇用形態の多様化など、仕事に対する価値観が変わってきたこと。それがなければ、このような活動は生まれていないかもしれません。対比されるプライベートの価値観も、そんな社会の状況を映し出していると思います。

「住み開き」という言葉から「こういう考え方があるんだ」と勇気や安心感を受けとった人もいるでしょうね。また、大震災により、日常からつながりをもつ大事さに気付いた人も。血縁や地縁だけでなく、より異なる価値観の人同士が一緒にいられる状況になれば、より豊かな世の中になると思います。また、個人でやりたいことと社会で求められていること。この2つがいずれどこかで繋がってくることに対して、希望を持ち続けてほしい。「住み開き」という言葉に縛られる必要はないです。やることだけが目的になってほしくないし、やって失敗して気付くということも大事だと思います。

「住み開き　家から始めるコミュニティ」筑摩書房

# 少年非行防止へ地域で連携

## 京都で2つの試み

飲酒、喫煙、暴力行為、家出、万引き、薬物乱用など、生活環境の変化や子ども達の規範意識の低下、大人社会への興味が高じて非行に走る少年が増えています。

家庭や学校、地域社会が連携し、少年の生活や行動などの変化に注意し、少年非行を防止しようと、このほど京都府内全25警察署に「非行防止対策チーム」を編成、夜のパトロールなど活動を始めました。

一方、大学の研究グループが、地域と中学生のつながりを求めて、中学生のホンネやアイデアをざっくばらんに出し合うサロンを山科で開催し、中学生と大人が語る機会をつくろうとしています。

### 地域社会のスクラムで少年たちに愛の声かけ

### 京都府市の全警察署に非行防止対策チーム始動！

地域社会の愛のスクラムで少年非行を防ごうと、京都府内25の警察署単位で「非行防止対策チーム」を編成、それぞれ愛称をつけてこのほど勢ぞろいしました。これまで少年補導委員会やPTAなどが単独で子どもたちを見守ってきましたが、関係機関が一緒になって対策チームを作り、地域の盛り場や公園などの夜間パトロールを中心に、少年たちにあたたかい声かけをしています。

京都市内の12署では、昨年7月に山科署の「銀河隊」がいち早く誕生、自治連合会や消防団も加わり、管内13地区別に夜間パトロールを実施しています。月曜日と金曜日をパトロールデーとし、月に5、6回、「銀河隊」の腕章を巻いて活動しています。中には深夜パトロールに及ぶ地区もあるそうです。「銀河隊」と名付けたわけは、夏の夜空に浮かぶ天の川のように、地域の多数の大人で子どもたちを見守り、非行防止に努めていこうという趣旨からだそうです。

京の繁華街、新京極や河原町をかかえる中京署では対策チームの一人ひとりが、それぞれの立場で少年たちを善導しようと「中京みちびき隊」と名付けました。毎月1日と第3金曜日の夜、中高校の先生や少年補導委員ら10余人が、にぎわう中心街のゲームセンターや公園、コンビニなどをパトロールして少年たちに「遅くならないように早くお帰り」とやさしく声をかけています。

その他、各署の「非行防止対策チーム」の想いのこもった命名を紹介しますと、管内の神社、寺院から上京署の「天神隊」、東山署の「青龍隊」、北署の「雷隊」、地域名で右京署の「嵐山隊」、大人と子どもをつなぐ川端、下鴨両署の「心つなぎ隊」、元気いっぱい南署の「南サザンクロス隊」、下京署の「下京かがやき支援隊」、祈りを込めた伏見署の「伏見明星隊」、西京署の「西京再生隊」とそれぞれ特徴的なネーミングです。

京都府内の少年非行の傾向をデータで見ますと、平成23年中に万引きなどの刑法犯で検挙・補導された少年は2772人で、前年より150人ほど減っています。学校職業別では高校生の非行が前年の29・4%から27・0%に減少し、逆に中学生が46・3%から48・4%に増加しています。こうした少年非行の背景には、少年自身の規範意識の低下や孤立化、コミュニケーション能力の不足などが指摘されています。「地域の子どもたちは地域で守り育てる」という呼びかけで、少年補導委員会、自治連合会、PTA、京都府警スクールサポーターなど関係団体が寄り合って「非行防止対策チーム」を結成したものです。

（対策チーム参加問い合わせは、各警察署 少年係まで）

### 地域と大学のアイデアで若者を支えるしくみ

### 第2回 ざっくばらんサロン 開催！

「地域と若者」をテーマに活動する山科青少年活動センターでは、3月に引き続き、龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター（LORC）との協働で「第2回ざっくばらんサロン～山科の中学生のこと語り合いませんか?」を8月5日（日）に実施しました。

3月に行った第1回では、地域と中学生とのつながりが必ずしも豊かでなく、地域の一員として中学生が参加できる仕組みがないことがわかりました。今回はそのことも踏まえて、両者の間につながりが生まれるようなアイデアをできるだけたくさん出し合いました。

特に焦点を当てたのは、関わり方の難しい、非行傾向のある中学生です。龍谷大学法科大学院の石塚伸一教授（犯罪学）による冒頭のミニレクチャーでは、非行少年の大多数が「不処分」として地域に戻されるため、統制を強化するのではなく地域で少年たちを支える仕組みが重要だというお話をされました。

その後のグループ討議では、たとえば「公園で花火が禁止されている」という話題から、「中学生には、健全で堅苦しいものには見向きもされない。大人も一緒に楽しめるような遊び心のある取り組みが必要だ」という意見が出たり、「中学生の意見や感覚がまちづくりに反映されることがほとんどない」「子育て世帯が孤立している」「学校と地域が連携するためのアイデアが必要だ」などの課題が提起されたりと、さまざまな立場から「ざっくばらん」に語られました。しかし、大人たちが語り合えば語り合うほど、中学生がいま実際に何を考え、何に悩み、何を大事にしているのかをもっと知りたいという機運が高まってきました。今後、第3回・第4回と続いていく中で、中学生と大人たちが同じテーブルにつき、「ざっくばらん」に語り合うことを目指していきます。

（山科青少年活動センター　ユースワーカー　上原　裕介）

# 青少年活動センターのページ

## 東山青少年活動センター

### 創作ダンスを楽しく

# ココロからだンス W.S

恥ずかしさも、惨めさも、嫉妬も、羨望も、
友情も、ガッツポーズも、練習後のおいしいビールも、
ここには全部があった、かもしれない。
ただ一つ、最後まで、予定調和だけが、なかった。
それは、生きること、そのものかもしれないと、思った。
〈修了公演パンフの参加者メッセージより〉

東山青少年活動センターでは、演劇やダンス初心者を対象に、舞台公演づくりという共通の目標を成し遂げる活動でグループ体験の機会提供を行い、青少年の自分づくりを支援しています。その１つ、創作ダンス事業の始まりは、1994（平成６）年の中京青年の家（現中京青少年活動センター）。モダンダンスワークショップという事業名でスタートしました。これは、コンテンポラリーダンサーの砂連尾理さんと寺田美砂子さんを講師に迎え、半年間をかけて創作ダンスの自主公演づくりを目指すというものでした。当時、ワークショップということば自体もあまり世の中には浸透していなく、コンテンポラリーダンスと聞いて、すぐにわかる人も少なかった。３年目からは事業名を Dance Performance Work と改め、プログラム内容も少し整理をして、その後、少しずつ改良を加えながら、2004（平成 16）年まで 11 年間実施しました。2005（平成 17）年からは、その後継事業として、同じくコンテンポラリーダンサーの佐藤健大郎さんと大槻弥生さん（2008 年まで）をナビゲーターに迎え、ココロからだンス W.S を実施しています。修了公演の前には、近隣の学校を訪問して児童・生徒とダンスで交流し、創作途中の作品の中間発表もしています。

参加者のニーズは踊りたいということにとどまらず、もっと広い意味で体を動かしたい、体のことも含め、自分自身のことをもっと知りたい、あるいは変えたい、ストレスを発散したい、何か打ち込むものがほしい、公演づくりによって日々の充実感や、やり遂げる達成感を感じたいなど様々な期待も知ることができます。

創作ダンスの作品づくりの特徴は、なかなか思うように動かない自分の体を意識することから始まります。自分の体と向き合う作業は４か月間にも及びますが、その作業は、自分の体についての記憶も一緒に呼び覚まし、同時に、それに付随する感情なども思い出され、ダンス創作をしながら、自分自身の内面的な出来事の整理も同時にしなければならないという場面も生まれます。

参加者は公募なので、集まった者はお互いに初対面の知らない者同士で、生活環境や価値観もそれぞれ違いますが、ワークショップの最終目標である、修了公演の実施という参加者共通の目標が、参加者同士をつなげていく大きな要素となっています。最初は個々に内向きになりがちな創作作業も、ペアや数人でのダンスを創作するワークを繰り返し行なう中で、最初は遠慮がちで「自分がうまくできないのに、他のメンバーに対しては何も言えない」という雰囲気だったものが、共通の目的である公演づくりに向けて少しずつ意見を言い合うようになり、それによってお互いの理解が進み、信頼関係を築き、最終的には全員で表現することへの責任を持とうという空気になります。

公演終了後のふりかえりでよく語られるのは、自分の体に対する発見です。箸の持ち方や歩き方のくせに始まり、筋肉の使い方のくせなど、自分の日常的な動作が意識化されることで、それが自分の体に対する見方にも変化をもたらします。そうした変化は、自分の体だけでなく、人や物との関わり方、認識が変化し、さらには大きなライフスタイルの変化にもつながっていきます。次は受容性です。自分と向き合って搾り出すようにして出てきた動きが、その人らしいダンスとして尊重される、その人のコンプレックスも含めて、その人らしさがそのままダンスになっている、という見方が創作ダンスの大きな特徴で、素に近い自分が受容されたという体験が得られるのです。３つ目は、価値観の幅が広がったということです。受容的な雰囲気によって他の参加者との交流が進み、その中でお互いの価値観を認め合うことで、自分の価値観も少し揺さぶられた結果です。以上のようないくつかの変化は自分づくりの大きなヒントとなり、事業終了後も参加者それぞれの次の生活場面に生かされています。ぜひこの機会に創作ダンスにふれてみてください。

最後に「丸ごと半年ダンスのススメ」のご紹介です。今年から中学校の１・２年生の体育の授業で創作ダンスが必須となりました。「どうやって創作したらいいの？」「具体的な創作の仕方を知りたい」と困っておられる先生方も多いと聞きます。そこで、コンテンポラリーダンスユニットのセレノグラフィカ（京都市のようこそアーティストとしても活躍）とセンターが共同で、中学校の先生や児童館・学童などの職員を対象に、体育の授業や普段の活動にも役立つ創作ダンスの作り方を、自身も楽しみながら学ぶことができるワークショップを、10 月から毎月１回実施することになりました。最終月の３月には、プロのダンサーによる作品と合わせて、ワークショップ参加メンバーで創作したダンス作品も一緒に上演します。12 月には、その関連企画として、セレノグラフィカが振付けた静岡市民ダンサーズ他の舞台公演を、ダンサーによる解説付きのダンス作品鑑賞体験も実施する予定です。わかりにくい創作ダンスの楽しみ方を少しでも知ってもらおうという新しい試みです。

**（東山青少年活動センター　チーフユースワーカー　西田尚浩）**

**ココロからだンス W.S #8**

**参加者募集中**

11 月 29 日より毎週月・木曜日 18：00 から 21：00
（祝日は 15：00 ～ 18：00）
●説　明　会　11 月 22 日（木）19：00 から
●公演準備日　2 月 24 ～ 26・28 日
●リハーサル　3 月 1 日
●公　演　日　3 月 2 日・3 日

# ユースかわら版

## 事業レポート

### リサイクルびんで工作

７月から９月にかけて東山青少年活動センターで行われている東山フェスタ。そのプログラムの１つ「リサイクルびんで工作」を８月７日（火）に開催しました。参加者は21人。まず、ごみ減量推進会議の方のお話を聞き、その後、ワンウェイびんを砕き、ガラス片を組み合わせて制作しました。みなさん、色使いや形、ガラスの置き方などを工夫して、世界で１つだけの作品を作り上げていました。「リサイクル」という言葉がぐっと身近に感じられたようです。

### 働く気持ち・応援相談会 in 京北

京都若者サポートステーションでは、７月24日（火）に京北町で、一定期間無業状態にある15歳～概ね40歳の就労を目指す方とその保護者を対象に、出前相談会を行いました。当日は４人が来所され、a京北町は、サポステのある都心から離れており、手探りの中で計画しましたが、京北出張所や地域の方々にご協力いただき、実施することができました。

### 夏のモテ☆イメチェン大作戦！

山科青少年活動センターがオシャレの発信基地に!?　８月４日（土）の午後、美容師や理容師を目指して頑張っている京都理容美容専修学校の学生さんや先生方の協力を得て、「夏のモテ☆イメチェン大作戦」を開催しました！ネイルアートに、ヘアセッティングに、そしてオシャレ相談に。10代の若者たちを中心に、盛況でした！

### メディアパブ事業「戦争の記憶プロジェクト」作品完成！！

伏見青少年活動センターでは８月５日（日）、「戦争」×「若者」トークカフェを開催しました。作品を発表するだけでなく、戦争体験者の生の声を聞き、若者どうしが自由に話をできる場を設けました。映像作品は、Youtubeで『ある戦犯の記憶』と検索すれば見ることができます。１人の戦争体験者と５人の若者の思いが詰まったこの作品が、多くの人の目に触れることを願っています。

### ストリートダンス教室第１期終了！

下京青少年活動センターでは、５月から７月まで全10回「ストリートダンス教室」を実施しました。初級クラスと中級クラス。どちらもアットホームな雰囲気で楽しく、そして真剣に踊っている姿が印象的でした。ほぼ全員が７月末から始まった「ストリートダンス第２期」も継続して受講しており、さっそく９月の出演イベントに向けた練習が始まりました！

### みなみ夏まつり

８月11日（土）、南青少年活動センターで「みなみ夏まつり」を実施しました。地域の方にセンターを知っていただく機会として、初めての試みでした。当日は昼から雨でしたが、近隣の中高生や親子連れなどで、とても賑やかなまつりとなりました。青少年ボランティアによる模擬店や遊びコーナーだけでなく、日ごろ当センターで活動している青少年によるギターやダンスなどのパフォーマンスステージもあり、熱い夏の一日となりました。

### ネットを寄贈していただきました。

６月中旬に、醍醐在住の桐生浩氏さんより、100張以上の各種ネットを寄贈していただきました。

南センターでは早速、ゴーヤカーテンに利用しています。

また、北センターでは農業事業の野菜を育てるネットとして、東山では表現系事業でアート作品などの素材として活用させていただく予定です。



### 「簡単ヴィーガンスイーツづくり」をしました！

北青少年活動センターでは、「体に優しくておいしいお菓子が簡単にできる！」と好評のヴィーガンスイーツ作りを７月７日(土)に実施しました。今回のメニューは、トマトを使ったマフィン、サマーフルーツゼリー、豆乳クリームのバナナのタルトでした。「ヴィーガン」とは…、よい材料選びとは…など、講師の伊藤美知子さんからお話を聞きながら、和やかな雰囲気ですすみました。次回のeat＊mo（いいとも）クラブは、10月21日（日）に「有機農業のお話と本格カレーづくり」を予定しています。

## 事業案内

### 「しもせい居場所ボランティア」を募集！

下京青少年活動センターには、毎日たくさんの中高生がやって来ます。中高生の成長にとって、学校とも家庭とも違う場所で、先生とも親とも違う身近な大人と関わることはとても大切な機会です。そこで、中高生と話をしたり、一緒に体を動かしたりと、居場所づくりに関わっていただける方を募集しています！　対象は、18歳以上30歳までの青少年。中高生の“今”に一緒に関わってみませんか？

### 健康フィエスタ 2012

伏見青少年活動センターでは、主に外国籍住民を対象に、健康に関する情報提供や相談・検査を受ける機会を身近に持ってもらうことを目的として、11月17日（土）に開催します。性感染症・HIVの検査、性や心の健康に関するワークショップは、外国籍住民に限らず青少年の皆さんも参加できます。その他にも、フードコートやステージ発表など、健康について楽しく考えることのできる企画がたくさんあります。

### ロビーギャラリー in みなみ

南青少年活動センターでは、大学生による絵画展や写真展、フリースクールに通う中高生のデッサン展など、数々の展示を行ってきました。展示内容に合わせたトークセッションも行うなど、市民の皆さんにも鑑賞して頂けます。出展者は随時募集しています！　青少年団体・個人、または青少年育成に携わる方であればどなたでも無料で展示できますのでお気軽にお問い合わせください。

### ユースシンポジウム 2012

「ユースシンポジウム2012」を12月1日(土)午前10時から中京青少年活動センターで開催します。今年のテーマは「若者と（ともに）生き方をデザインする」で、基調講演はNPO法人文化学習協同ネットワーク代表の佐藤洋作氏。若者の自立支援における最前線の活動を紹介し問題提起していただきます。山科醍醐こどものひろばの梅原美野氏らがパネルディスカッションした後、５会場に分かれて分科会を開き、混沌とした社会ゆえの可能性や課題を掘り下げる機会とします。参加無料。

### ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科！

今年も11月４日（日）に開催します。山科青少年活動センターの「やませいまつり」では、ステージ企画や模擬店を実施します。同時に、山科三条商店会、山科合同福祉センター、山科区社会福祉協議会、山階児童館でも祭りが開催され、まさに山科駅前の地域ぜんぶがお祭り会場!?「ぐるっと」まちをめぐり、楽しい一日を過ごしてみませんか。

### 大文字ナイトハイク

北青少年活動センター主催の「自然に親しむ」事業、第２弾！日が沈んでから山登りスタート！　ライトを手に持ってナイトハイクを行います。ナビゲーターは、大文字山に精通している安田陽介さんです。昼間には見ることのできない動物や景色を満喫しましょう！　10月27日(土)午後４時スタート、午後10時に解散予定です。参加費は500円。対象は、18歳以上30歳までの青少年です。一緒に「夜の大文字」の自然を堪能しましょう!!

### 第２回 AIDS 文化フォーラム in 京都

日時：2012年10月６日（土）・７日（日）
場所：同志社大学新町キャンパス　尋真館

「第２回AIDS文化フォーラムin京都」が同志社大学新町キャンパス尋真館にて行われます。さまざまな団体や個人が集いHIV/AIDSの啓発や情報交換などを行います。このイベントに京都市ユースサービス協会も参加し、10月７日（日）10時より青少年を対象としたワークショップ企画を実施予定!　イベント自体は無料なので、どなたでもご参加ください。
URL http://hiv-kyoto.com/

### 本誌『ユースサービス』の次号から広告を募集します！

公益財団法人 京都市ユースサービス協会が編集制作の季刊情報誌「ユースサービス」は、この13号で創刊３周年を迎え、若者とともに若者の現状や未来を考える媒体として、好評を得ています。次回の平成25年１月１日発行予定の「ユースサービス」14号から、誌面に広告原稿を入れることにしました。

〈広告掲載料金
オールカラー掲載〉

| | |
|---|---|
| 全１ページ（縦25.6センチ×横20.9センチ） | ５万円 |
| 横1/2ページ（縦12.8センチ×横20.9センチ） | ３万円 |
| 記事下1/4ページ（縦6.4センチ×横20.9センチ） | ２万円 |

広告掲載のお問い合わせ、お申込みは、
**京都市ユースサービス協会事務局（電話075-213-3681、Fax075-231-1231）**まで。
申し込みの締め切りは、**11月１日（木）**です。